

《担当者名》田村至

【概要】

さまざまな脳疾患に起因する失語・失行・失認、記憶障害、認知症など、臨床場面で遭遇する主な高次脳機能障害に関して、原因と病態、症状と分類、評価法、対応の仕方、リハビリテーションについて学ぶ。

【学修目標】

一般目標

中枢神経系作業療法学をより深めるために、高次脳機能障害について理解し、その概略を説明できる。

行動目標

1. 高次脳機能の概念と評価の基本を理解し、障害評価の学習につなげることができる。
2. 高次脳機能障害へのリハビリテーションを理解し、臨床実習に生かすことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	高次脳機能の概念・原理	高次脳機能の原理（機能局在、二重乖離、バイヤルジェ・ジャクソンの法則、離断症状）について学ぶ。	田村至
2	視覚の高次脳機能障害	視知覚・空間認知の仕組みとその障害（視覚失認など）について学ぶ。	田村至
3	失認・失行	聴覚失認、病態失認、地誌的見当識障害などについて学ぶ。 行為の障害（失行）について学ぶ。	田村至
4	失語症1	失語症の概要、原因疾患、タイプ分類および失語症患者への対応の仕方	田村至
5	失語症2	視聴覚教材 失語症の回復と失語症患者への対応について	田村至
6	記憶障害	記憶の分類、記憶障害の原因疾患、評価、症状、リハビリテーションについて学ぶ。	田村至
7	前頭葉機能障害	前頭葉機能障害の病態と評価法、症状、リハビリテーションについて学ぶ。	田村至
8	認知症	認知症の原因疾患、症状、タイプ分類、リハビリテーションについて学ぶ。	田村至

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末試験100%。

【教科書】

藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版」 医学書院 2021年

【備考】

本授業の内容は理学療法士国家試験の出題範囲である。

【学修の準備】

シラバスに書かれた講義進行に応じて指定した教科書を事前に読んでおくこと。（80分）

講義で配布した資料と教科書で講義内容を復習し、知識を確実なものにすること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

言語聴覚士

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、高次脳機能障害の病態、リハビリテーションおよび高次脳機能障害にかかわる専門職種との多職種連携について講義する。